

平成 22 年 5 月実施

第 1 回四島交流（ビザなし交流）訪問団視察報告・概要

第 1 章 事前取組み編

第 2 章 国後島訪問編

第 3 章 委員会報告編



報告者：北海道議会・北方領土対策特別委員会理事 田島央一

第1章 事前取組み

5月13日、根室市で開催された「ビザなし訪問結団式・事前研修会」に出席致しました。私は明日からビザなし交流で国後島を訪れる予定であります。結団式では、私からも自己紹介を含め一言挨拶致しました。北方領土返還後には、北海道の離島としての対策が求められるはずで、近い将来の返還を信じ、私自身は未来志向で決意を述べたつもりです。



結団式終了後には、事前研修会が開催され、四島交流の目的、四島滞在時の注意事項、対話集会、住民交流会、元島民の講話、日程留意事項についてそれぞれ説明を受けました。最後に、ロシア語講座も行われ、ロシア人の思考や行動特性などに触れたお話は非常に有意義でした。明日からのビザなし交流で実践したいと思います。

第2章 国後島訪問編

5月14日9:25、北方領土・国後島へ向かうため、根室港を出発しました。出港とはなりましたが、国後島・古釜布に上陸するまで不安は続くかと思えます。今回、出発直前にビザなし訪問同行の日本側記者に対し、ロシア外務省発行の記者証明書の取得を求めている問題があります。結局、日本側記者の動画撮影や独自取材の自粛を今回限り容認しました。その影響で、同行取材



する予定だった NHK カメラマンが訪問しない事となりました。また
昨年 の 第 1 回 目 の ビザ な し 訪 問 で は、 出 入 国 カ ー ド 提 出 を ロ シ ア 側
か ら 求 め ら れ、 結 果 と し て 中 止 に な っ た 経 過 が あ り ま す。

国 後 島 へ の 入 域 手 続 が 問 題 無 く 行 わ れ、 無 事 上 陸 し、 5 月 14 日 ~
17 日 の ビザ な し 交 流 日 程 を 確 実 こ な し た い で す。 画 像 は 根 室 港 を 出
港 す る 時 の 様 子 で す。 見 送 り に は 根 室 市 長 や 市 議 を 含 め た 根 室 市 内
関 係 者 や マ ス コ ミ な ど が 多 数 参 加 し て お り ま し た。 ま た、 松 浦 宗 信
道 議 (根 室 市) も 来 ら れ て お り、 激 励 を 受 け ま し た。

根 室 港 出 航 後 の 10 : 00 か ら、
旅 客 船 「 ロ サ ル ゴ サ 号 」 (ラ テ
ン 語 で ハ マ ナ ス) に て、 船 長 よ
り ト イ レ、 食 堂、 自 動 販 売 機、
ク レ ジ ッ ト 電 話 な ど と い っ た 船
内 設 備、 救 命 胴 衣 の 着 用 方 法、
避 難 経 路、 救 命 ボ ー ト の 説 明 を
受 け ま し た。 可 な り の 揺 れ で も



う 船 酔 い 気 味 の 人 も 見 受 け ら れ ま し た。 私 も 利 尻 礼 文 航 路 で フ ェ リ
ー な ど に は 乗 り 慣 れ て い た つ も り で し た が、 揺 れ も 可 な り の も の で
し た か ら、 横 に な っ て 休 ん で お り ま し た。 揺 れ の 影 響 の た め か、 昼
食 を と ら れ た の は 訪 問 団 員 の 3 分 の 1 程 度 し か い な か っ た そ う で す。
画 像 は 船 内 説 明 時 の 様 子 で す。

舢 舨 (渡 し 船) が ロ サ ル ゴ サ 号
に 横 付 け さ れ、 ロ シ ア 側 の 担 当
者 が ロ サ ル ゴ サ 号 に 乗 込 み 入 域
手 続 な ど が 行 な わ れ ま し た。 入
域 手 続 終 了 後 の 15 : 00 頃 か ら、
訪 問 団 員 は 画 像 に あ る 舢 舨 (渡 し
船) に 乗 り 移 り ま し た。 気 温 が



低いのに併せ、強風の影響で体感気温は0 を下回るくらいで、まるで真冬といった寒さでした。10分程度寒風に晒されましたが、無事国後島・古釜布に上陸しました。到着した事で一安心したところでもあります。上陸すると海上のような強風が無かったため、一層暖かく感じられました。その後、国後島の方々の車にて、友好の家に向かいました。

15:50 から、南クリル地区行政庁舎を表敬訪問致しました。こちらの地区長・ソロムコ氏とお会いしました。ビザなし交流が日ロ両国に資する取組みであるとの認識を示され、国後島の概要についてお話を頂きました。特に人口構成で2009年には新生児が116人誕生し、一昨年に比べ、38人も増えたとの事。国と州が尽力している旨も述べられました。これは、ロシア国内において、子ども手当が支出されている効果であると思っております。



ちなみに2年前サハリン州を訪問した際に、ベビーカーを押す若い女性があまりに多いので、通訳を通じてロシアの若い女性に聞いたところ、ロシア政府が子ども手当を支給する政策を実施した事により、その女性も子どもを出産したとの事。その効果が国後島でも出ていると私は認識しました。

この他に、クリル発展計画の実施状況について触れ、2009年で15億ルーブル（日本円で60億円）がこの地域に投資されたとの事。ただし、2010年は11億ルーブル程度の投資に落ち込んだとの話もありました。他



の方からお聞きしましたが、リーマンショック後、下落傾向が様々な点で見られるとの事。島内の一番基盤整備は護岸工事のようで、現在進行しているとの事。また、新規の幼稚園が開園する予定だそうで、現在幼稚園は4つで園児は255人、学校（小中高一貫教育・11年制）には825人が通っているそうです。

日本側から藤原団長がご挨拶し、日口間には越えなければならない山があるが、ビザなし交流でこの山も低くなりつつあるとの認識を述べられ、友好条約締結を願うとの挨拶がありました。この他に、クリル地区発展計画、レアメタルや石油資源についての質問がありましたが、クリル地区発展計画は計画通りとの事で、レアメタルや石油資源については中央政府レベルの話でコメントできないとのお話でした。政治的な話題には触れたくないような事にも言及されておりました。

16:50から、友好の家にてロシア語講座を受けました。現地の学校の先生と通訳さんから、すぐに使える挨拶や単語を教えてくださいました。今回は事前から「ビザなし交流 会話集」が配布されていたので、何度か目を通しておりましたが、発音練習や



実践的な活用方法を学びました。黒板を使って説明を受けましたが、見えそうな挨拶の言葉や単語はちゃんと覚えめました。

夕食は2班に分かれて、市街地のカフェを訪れ、食事となりましたが、日本人の口に合う食事が提供されていたとの事。私が以前訪れたサハリン州での食事と比べても、食事内容は日本人好みだと感じました。元島民の方々やビザなし交流経験者から様々なアドバイスを頂いたりし、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

夕食後の18:10から、古釜布から10分程車で走った近布内にある観光名所であるローソク岩を訪れました。画像はその時の様子です。こちらではローソク岩を悪魔の指と呼んでいるそうです。こちらからは爺爺岳(1822m)も見ることが出来ました。



移動の車内からは道路事情もよく分かりました。道路の舗装はなされておらず、砂利道が続き、まるで林道を走っているような感じでした。植生も北海道と似ており、知床や阿寒にいるような印象を受けました。ロシア語講座を受けた後だったので、運転してくれた方に早速ロシア語で話しかけて実践してみました。

ビザなし交流訪問2日目となる5月15日朝7:50から、国後島古釜布にある地区病院を視察致しました。改装して1年しか経過していないため、新築の匂いがしました。婦人科のコーバリ医師より病院の概要などを説明受けました。人道支援のおかげで、設備の充実、子



どもの支援ができ、感謝していると冒頭に挨拶がありました。外装も変化しつつあり、改善・修復されてきているとの事。こちらでは内科、外科、婦人科、小児科があり、隣接している施設に感染症に対応する科があるそうです。第2内科は別施設で、温泉の出る場所にあるとの事。この他に色丹島に診療所があるそうです。こちらの地区病院に勤務している医師は根室で研修を受けたと経験があり、医師不足という北海道の医療事情もご存じでした。こちらでも、医師不足の状態にあり、専門外も診なければならない状況で、過剰労

働になっているそうです。日本の人道支援で麻酔機器を整備したが、老朽化によりロシア政府の支援で更新する予定だとの事。質疑では、1日平均の患者数や、医療廃棄物の取扱いなどが尋ねられていました。

8:30 から、博物館を視察致しました。館長より施設概要説明があり、海洋、火山、歴史、植物、動物のコーナーを案内して頂きました。1973年に爺爺岳が噴火したとの記載に根室市在住の方々からは噴煙で影響を受けた旨もお話されておりました。サハリン州の博物館にも展示がありましたが、こちらでもアイヌ文化の展示コーナーがありました。道立博物館と合同で調査をしているようで、5月28日から合同調査が行なわれる予定だとの事。この他に5月9日が対ドイツ戦勝記念日となっており、今年で65周年を迎えるという事もあって、特集するコーナーが設置されておりました。こういった展示は愛国心を高揚させるためのものなのか、気になりました。



9:30 から、友好の家で「ウラルシベリア塗教室」が行なわれました。18世紀から始まったウラルシベリア塗を参加者一同で実践しました。食器や室内を一筆で塗るのが特徴のようです。家や家畜、かまどを守る霊を宿らすため、専門の職人が描いてくれるとの事。悪魔払いの意味もあり、窓や玄関など、家の入口から描いていくそうです。今回は、小鳥と花を描いていきました。



画像は、私が描いたウラルシベリア塗です。講師で図書館勤務のエフゲーニアさんと一緒に撮りました。

11:00 から、教育センターを視察致しました。センター長より、概要説明を受け、施設内に入りました。職業教育が中心で男性は車の運転・技術関係、女性はパソコン関係を習っているとの事。昼間は無料で、夜間は有料だとの事。昼間は若い人が通っており、教育費無償化はこちらでも実施されているそうです。



夜間は社会人教育なので、有料となっているそうです。

ロシア全域で統一テストが行なわれ、その結果次第で大学に入学できるそうです。日本で言う「大学入試センター試験」といったところなんだと思いますが、その実施業務も担っており、責任重大だとの事。まだ、2回目だそうです。導入された理由は大学に近い都市部中心に裏口入学や不正入試が行なわれていたのを是正するためだそうです。これにより、地方出身者の大学進学が増えたそうです。パソコン設備や通信料はクリル発展計画で支出されているとの事。画像はインターネットで日本気象協会のサイトをプロジェクターで映している様子です。

12:40 から、南クリル中央図書館を視察致しました。館長より、施設概要の説明がありました。年間 1600 名が利用しており、蔵書は 35,000 冊程で行政府予算により運営しているとの事。読書よりパソコンに興味を惹か



れる傾向にあり、読書の大切さを伝える努力をしているそうです。日本の書籍コーナーでは古典的な枕草子があったり、北海道の作家による絵本が寄贈されていたり、更にはアンパンマンの本もありました。博物館と同様、5月9日の対ドイツ戦勝記念日の特集企画コーナーがありましたが、館長からは戦争を風化させないため、戦争は悲劇であるとの考えを伝えるためだと強調されておりました。この他に、ロシア人作家チェーホフの説明なども受けました。

13:55 から、古釜布にある日本人墓地を訪れました。こちらでは、元島民や島民2世3世の方々を中心に準備し、線香をあげ、参加者一同で合掌致しました。日本人墓地は非常に手入れがされており、きれいになっておりました。以前はロシア人墓地は手入れもされてなく、草も生茂っている状況だったそうですが、日本人墓地がきれいだったのも、それを見習ってきれいにするようになったそうです。これはビザなし交流や墓参の効果だと言われております。



なお、訪問団は2班に分かれて視察を行っており、東沸地区にある日本人墓地にも別の班が訪れております。

14:40 から、ダーチャ（家庭菜園付き別荘）を視察致しました。ロシアの文化・習慣で平日は都市部で生活し、週末は郊外のダーチャで作業をしながら過ごすのが一般的だとサハリン州を視察した際にも学びました。



本日は土曜日という事もあって、ダーチャで作業をしている方が多く見受けられました。こちらのダーチャは300坪程度で年間使用料は日本円で160円だとの事。土地の区画は各会社で持っているので、申請すれば割り当てられるとの事です。ここでは、馬鈴薯、人参、胡瓜、トマトなどの野菜が中心に作られているそうです。国後島の野菜不足の現状などについてもお話を聞く事が出来ました。

また、国後島の羅臼町寄りに来たためか、携帯電話の電波が通じ、皆さん一齐にメールを受信したり、電話をかける方もおられました。国後島で携帯電話が使えるのには驚きました。いかに距離が近いのかを実感させられる場面でもありました。

ちなみに、太平洋側の古釜布からオホーツク海側に移動したので、知床連峰が綺麗に見られました。高校時代に知床連山から国後島の羅臼山や爺爺岳を眺望していた私としては、感慨深いものがあります。この美しさや想いは一言では言い尽くせません。

17:15から、島内各家庭で食事をするホームビジットに参加致しました。訪問先では、早速食事なのかと思いきや、モスクワ放送の取材陣が待機しておりました。モスクワ放送ではビザなし交流を特集する番組で使用したいとの事で、訪問し



たメンバーにインタビュー取材が行ないました。特に元島民だった方を中心に、島を出た時の状況、その後の生活、島に対する想い、歴史認識、再び島を訪れた感想などを聞いており、私自身も多く学ぶ機会となりました。私も自己紹介し、日本の経済情勢についてコメントしました。モスクワ放送の取材陣からは、5月上旬に鈴木宗男・衆院外務委員長がモスクワを訪れた際に取材したとのお話を聞き、「鈴木宗男氏のお話は勉強になった」とか、「あのような政治家がいれば、日口関係に資する」との声がありました。

1時間近くに亘った取材を終え、やっと食事となりました。受入家族3名と訪問したメンバー5名、それに加え、モスクワ放送の取材陣3名で賑やかなホームビジットとなりました。最初は元島民の領土問題に対する認識や当時の状況をお話されておりました。お酒がすすむにつれ、政治談議やスポーツ、生活状況、教育環境、趣味、食事内容などといった多岐に亘る話題に触れました。通訳が出来る方がメンバーにいたので、ほぼ不自由なく会話が出来たのには感謝申し上げます。予定の時間を30分程超過するくらい会話は盛り上がっておりました。



ビザなし交流訪問3日目となる5月16日朝7:00から、国後島古釜布にある地方裁判所を視察致しました。新しい施設となったばかりなので、ビザなし交流訪問団としては今回初めて視察となるそうです。ジーコフ裁判長からは、施設概要、ロシア



連邦の司法制度（民事裁判、刑事裁判、治安裁判）、法律が遵守されているか管理する業務などについて説明がありました。訪問団員からは、裁判の内容や進行、裁判制度などについて質問がありました。裁判期間は限定されており、期限を越えると被告人は補償金を要求できるそうです。また、裁判数は減少傾向にあるようですが、一方で凶悪化しているとの事。弁護士と判事の比率は5:1となっており、南クリル地区で弁護士を5人確保しているそうです。過去に日本側漁船が捕された際には、旧裁判所で4人を裁判にかけたそ

うです。画像は、法廷の様子で、被告人は鉄格子とアクリル板で囲われた中に入れられて、審理が行われるそうです。

8:00からは、建設中の幼稚園を視察致しました。こちらは建設中という事もあって、外観を見ながら担当者から説明を受けました。全体予算の6割を支出した段階だとの事。耐震性のある建物となっており、韓国の技術を活用しているそうです。室内にはプールや植物を育てる



スペースも設け、120名収容できる規模だそうです。乳児にも対応し、今年9月開園予定との事。対象は3~7歳までで月額1300ルーブル（日本円で5000円程）かかるそうです。ロシア政府の政策で出生率をあげるために、第2子出産で1万ドル程（日本円で100万円程）支払われるとの事。これは以前サハリン州を訪れた時に若いお母さんに聞いた話と同様でした。また、現金支給という訳ではなく、教育費や住居費といった形での支給となるそうで、これは日本政府でも子ども手当支給のあり方を検討しておりますが、参考になるかと思えます。

なお、こちらから「サハリン州ビザなし交流委員会・ポノマリョフ氏」が視察に同行し、各種説明を補足する形で加わりました。人物像については後段で述べていきたいと思えます。

8:50 から、メンデレーエフ空港を視察致しました。こちらもクリル発展計画に基づいて建設されており、現在供用中ではありませんが、完全に完成するのは今年12月だとの事。2000m滑走路が既に整備され、国後島 - ユジノサハリスク間は片道



4100 ループル、飛行時間は1時間20分で就航しているそうです。空港周辺道路も整備されつつありますが、まだまだ整備に時間がかかりそうな印象を受けました。

ちなみに、1999年に鈴木宗男代議士が友好の家完成式典に出席した時には、中標津空港から来た飛行機がこちらに着陸したとの事。

画像は空港建物正面の様子です。霧が発生していたため、近いはずの管制塔も霞んで見えます。

12:00 から南クリル地区行政政府ホールにて、ビザなし訪問団と国後島の現地の方々との住民交流会が行われました。こちらでは、別海町のボランティアサークル・サンキューの会の方々が中心となり、絵手紙や折り紙の制作を行いました。私も絵手紙を作ってみたかったのですが、



国後島の方々が予想以上に来場したため、ビザなし交流訪問団からは10名程度しか席に着けませんでした。国後島の方々に楽しんでもらうためには、これで良かったんだと思います。私を含め、手の空いた訪問団員は皆さんのお手伝いをするなどしておりました。これだけ集まった理由は、南クリル地区行政政府でチラシを配布するなど広報に力を入れたとのこともお聞きしました。

絵手紙や折り紙が終了後、参加者で小グループを作り、意見交換会が行われました。テーマはグループ毎に自由に設定し、私のグループではお子さん連れのご家族らがいたので、「子どもの将来」について意見を交しました。私からは年配の方に「お子さんはどんな仕事をしているのか」、「親の近くに住んでいて欲しいか」と尋ねたり、若いお母さんには「子どもにどんな仕事をさせたいか」、「島の生活に満足しているか」など聞いてみました。話をしていく中、自然な形で北方領土問題に触れる事ができ、様々なご意見や国後島の方々の思っている事をお聞き出来たように感じました。



意見交換会終了後には国後島のお子さん達によるコンサートが行われ、民族舞踊やダンス、唄の披露などがなされました。

ビザなし訪問経験者の方々にお話を聞いた限りでは、以前の対話集会は領土問題をストレートにやり取りしていたため、口論に近い感じの雰囲気があったようです。それに比べ、今回の住民交流会は和やかな状況で、参加者も多かったですし、意見交換会では自然な形で北方領土問題に触れて意見を聞く事が出来たので、今回の住民交流会は成功したと私は思います。

15：30 から古釜布の市場広場で散策する時間がありました。訪問団員の皆さんで買い物などをしておりました。以前、国後島を訪れた方のお話では、若干値段が上がっているお店もあったようでした。また、店の品揃えも数年前に比べても各段に充



実しているとの事です。調味料やお酒でも日本製が散見されましたが、どちらかと言うと韓国製の方が目に付いたというのが私の印象でした。毎回こちらの食事で提供されていたパンなどは人気で、すぐに売り切れてしまっておりました。

17:15から友好の家にて、夕食交流会が行われました。地区長・ソロムコ氏や訪問団長・藤原氏からご挨拶に続き、ソロムコ氏から藤原氏へ記念品の贈呈がありました。また、昨日行ったウラルシベリア塗の表彰



もあり、和やかなムードで夕食交流会はスタートしました。徐々にお酒が入ってくると、それぞれのテーブルが賑やかになっていき、国後島の方が日本の歌謡曲を歌い始めたりすると、皆さん手拍子で大盛り上がりでした。通訳の方々が近くにいたので、私も様々なお話をさせて頂きました。日口交流という観点では非常に成熟した状態であると実感致しました。

私の席の目の前には、行政府関係者や議会関係者などで占められておりました。画像は、私・田島とサハリン州政府ビザなし交流委員会・ポノマリョフ氏です。2008年5月に北海道議会とサハリン州議会との交流事業でサハリン州を訪れた際、当時サ



ハリン州議会議員だったポノマリョフ氏は「南クリル地区（北方領土）に対する支援では日本政府が邪魔をしている」と日本政府に対して否定的な発言をしていたのが私には非常に印象的でした。今回の視察にも途中から加わり、視察先で説明や補足したりしておりました。対日強硬派という事もあって、「なぜ彼が来たんだ」などと

の声が国後島ではありました。日口の政治情勢など様々意見交換を致しましたし、緊張しながらもウォッカを呑み合いました。私の顔が赤くなっているのはその証拠です。

ビザなし交流訪問 4 日目となる本日は北海道に帰るため、朝 7:00 に友好の家を出発しました。これまでの間、ここ「友好の家」を中心に活動致しました。こちらに到着した時には、ロシアの民族衣装を着た女性がパンと塩を持ってお出迎えしてくれました。ビザなし交流訪問もあっという間に終わりを迎えたのだと実感も致しました。



ちなみに「友好の家」は 1999 年に北方四島住民支援として、緊急避難所兼宿泊施設（日本人とロシア人の友好の家）という位置付けで設置されました。日本国内では、「ムネオハウス」という呼び名が広く知られているところでもあります。設備も充実しており、100V の日本製電化製品は使用できますし、シャワーやトイレも日本仕様なので違和感なく使えます。ただひたすらにありがたみを感じながら、4 日間過ごしました。

7:30 に舳（渡し船）に乗り込み、国後島を離れました。見送りに国後島の方々も多く来て頂き、別れを惜しみながらの出港となりました。途中、モスクワ放送の取材陣が別の船から、訪問団を撮影しておりました。10 分程で旅客船口サルゴサ号に横付けされ、



乗り移りました。画像はその時の様子です。その後、出域手続きなどが行われ、8：00 に古釜布沖を出発し、北海道へ向かいました。

9：40 より、ロサルゴサ号の船内にて、ビザなし交流訪問団の解団式が行われました。訪問団長・藤原氏からご挨拶があり、続いて団員それぞれが感想を一言述べる機会もありました。これで訪問団は解散となりました



が、団長や顧問などは上陸後に記者会見が予定されていたので、私はその準備にあたっておりました。また、行きに比べ、波が穏やかで揺れもほとんど無かったので、船内で元島民の方々が故郷を追われた時のお話などを聞く事が出来ました。この他にも、国後島が占拠される前の住宅地図など、貴重な資料なども見る事が出来ました。

10：45 からは昼食の牛丼と味噌汁が提供され、思わずお替わりしてしまいました。

13:00 に根室港へ到着致しました。根室港には取材陣が殺到しておりましたが、私は根室市内にある千島会館へ向かいました。13：30 から、千島会館にて四島交流訪問団の記者会見が行われ



ました。記者会見では、それぞれの感想を一言述べたり、入域手続き、入港税の取扱い、住民交流会の状況、領土問題の話題、同行記者の動画撮影自粛措置、ビザなし交流の今後の課題など様々な質問が出されました。

私からは一言感想として、住民交流会や夕食交流会、ホームビジットを通じて、日口相互理解という観点からはかなり成熟した段階にあると実感した旨と、ビザなし交流訪問自体は率直に評価すべきものであると述べました。



住民交流会の状況についても、私からも説明させて頂きました。グループ毎にテーマを設定して、自由に意見交換をした旨を述べ、私のグループでの事例を示し、自然な形で領土問題に触れる事ができ、以前の対話集会に比べ、より良いものになったのではないかとの考えも述べました。この他にも、藤原団長から国後島の現状について説明などがなされ、予定時間を10分程オーバーして、記者会見は終了しました。

今回のビザなし交流訪問団として参加して感じた事は、日口間の交流の成熟度が高く、19年にも亘る長年の積み重ねの結果であるのと同時に、民間交流をこれまで長期にさせてしまった政治の責任をも感じてしまいました。

第3章 委員会報告

6月2日、北方領土対策特別委員会が開催されました。議事内容は、北方四島交流事業の実施に関する報告聴取の件、北方四島訪問実施報告の件でした。5月14日～17日実施のビザなし交流訪問において、道議会議員では私のみ参加しておりましたので、私から実施報告をさせて頂きました。今回配布された実施報告書に



は事実経過しか書かれておりませんでしたので、何点かに絞って報告致しました。

私が参加した第1回ビザなし交流訪問では、入域手続がなされるかどうか懸念を持っておりまして、報道もこの話題に集中していました。しかし、私としては、住民交流会となって初めてのビザなし交流訪問でしたから、住民交流会の状況などを掘り下げて説明致しました。この他に国後島の羅臼町側で携帯電話が通じる事などをお話すると委員の皆さんにも反応する方々が見られました。

また、特別委員会での報告という事もあったので、出席議員に対して、議員は発信力があるので、ビザなし交流訪問で見聞きした事はしっかりと情報発信する必要性があると述べました。私自身もこちらのホームページ上でビザなし交流訪問の様子を掲載しましたし、外に向かって情報発信する事が相互理解を促進する一助になると私は考えます。議員が海外へ行くと、「物見遊山」とよく批判されますが、そうあってはならないと思い、それを行動で示すべきと私は思っております。

最後に、ビザなし交流訪問を19年もの長きに亘って続けさせてしまった政治の責任（外交が停滞したという意味での責任）をも感じたとの想いを述べ、報告を終えました。

以上で「平成22年度第1回四島交流（ビザなし交流）訪問団視察報告・概要」とさせていただきます。